

令和5年5月27日

わらしべ会

理事長 辻 和也

## ●はじめに

令和4年の年末から正月にかけて身障入所施設のわらしべ園でも遂にクラスターが発生した。幸い利用者の命に別状はなかったが、職員の勤務体制にはかなりの無理が生じた。各職員の奮闘、意欲には労をねぎらいたい。その後、第8波終息以降は大きな感染はなく、令和5年度の活動計画もほぼコロナ前にもどす方向で考えている。

一方で令和4年度は北海道わらしべ会との交流、ケニアの障害者施設への職員派遣、車いす利用者のホノルルマラソン参加、第二わらしべ園ソフトボール部の沖縄合宿など前向きな取り組み、挑戦に挑むことができた。われわれ職員の経験が、利用者の活動拡大につながり、ともにその喜びを実感できることがわれわれの仕事の本質であることを共通認識として共有できたことは大きい。

事業運営では、必ずしも各事業所の運営が安定しているとは言えない。就労事業の赤字改善、障害者乗馬の継続、生活介護事業の利用者獲得など課題は多い。なにより一番の課題は、慢性的な職員不足であり、他法人と比べて採用活動には力を入れているが、思うように採用につながらない。今後やりたいことがあっても、事業を展開しようとしても、職員不足のため思い通りに進まない<sup>しょうそう</sup>焦燥感を持ち続けることになるだろう。社会福祉法人わらしべ会として最低限やらないといけないこと、取捨選択しなければならないことを、こうした現実なかで判断していかなければならないと思っている。

以下に事業報告は計画と対比させるため、点線で囲んだ文章で計画に追記する形で記述する。

## ●今年度の法人事業計画

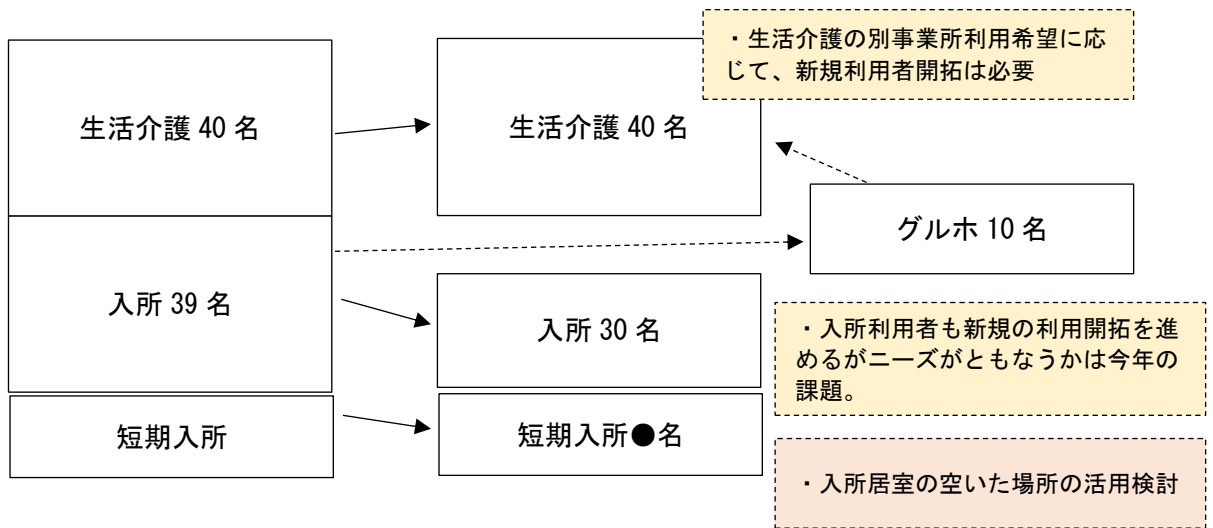
### 1) 法人全体の事業計画

#### ① わらしべ園、第二わらしべ園のこれからの事業展開

- ・地域移行は入所施設の社会的課題であり、今まで同様進めなければならないが、今後の地域移行対象者は今までよりも障害が重度になることが予想され、入念な計画作成が必要である。
- ・さらに、わらしべ園、第二わらしべ園ともに生活介護を中心とした事業の利用者開拓と収支の改善を前提としたうえで、次の段階として検討を進める。
- ・次にわらしべ園、第二わらしべ園それぞれの今後の事業展開を私のイメージとして示すが、現場職員の意識を高めながら、それに合わせて組織化してすすめていく。
- ・なお、生活介護、入所、短期入所ともにアウトリーチを目的とし作成した「新規利用者開拓計画」をもとに実行していく。
- ・わらしべ園については、図に示す通り、①グループホームを計画し、②空いた居室を短期入所や生活介護など必要な事業に活用する。おおむねこれを3～5年で実行できるようすすめる。

#### ●職員の意識向上と組織化

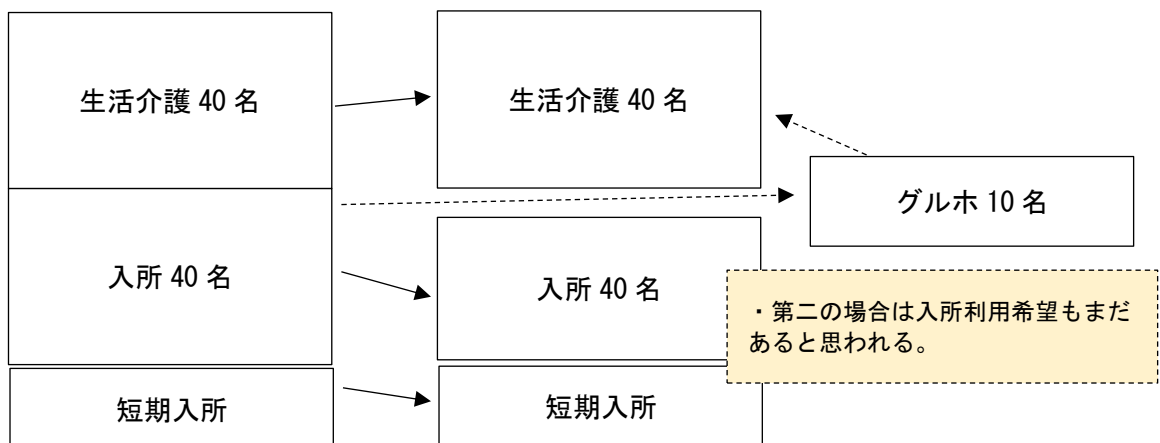
- ・実際のグループホームを見て、生活できる利用者を想定する。
- ・わらしべ会の動画や研修参加、研修報告を通じて、一般的なグループホーム運営の課題を理解する。
- ・職員の意識が醸成されたら、法人内で委員会を組むか担当を決めるなどの組織化をして計画案を作成する。



→入所、生活介護ともにそれぞれ新規の利用者があり、特に入所施設はその社会的な使命から安定的な継続を目指さなければならない。今後も引き続き利用者開拓計画に沿って「困っている人」を発掘し、利用につながるよう行動しなければならない。

→なお、グループホームの計画に関しては、はじめににあげたように慢性的な職員不足もあり、今後その実行に不安が残る。令和5年度の事業計画では、現実的な実行可能性をふまえた議論を行うことになっている。

- ・第二わらしべ園については、以下のとおり。第二わらしべ園の場合は、グループホームに出た後も一定の新規利用のニーズはあるものと考え、施設本体の規模はあまり変えない。
- ・実行のめどはわらしべ園とおなじくおおむね3～5年。



→第二わらしべ園は安定的な運営となっている。今後はさらに支援困難な利用者の依頼があるかもしれないが、できるだけ社会のニーズに応えられるよう職員の力量を高めたい。

→第二わらしべ園のグループホームの計画もわらしべ園同様、職員数の不安定さからおこる実行可能性をよく頭に入れたうえで検討していきたい。

## ② 就労支援事業の再考

- ・就労支援事業所は、市内の事業所も増え、今後より鮮明にわらしべ会の就労支援の強みをアピールしなければならないだろう。すでに「新規利用者開拓計画」をセルプでは作成済みなので、今後はアトラクトとともに地域のニーズの掘り起こしからすすめていく。
- ・そのうえで実際の利用者像と職員規模にあった作業内容を考えていく

→事業規模にあった活動再編は管理者を中心として意識を持って取り組んでいる。就労継続 B 型事業「セルプわらしべ」「アトラクト」は利用者数も安定しており収入は見込めているが、事業規模以上の活動過多をどう整理するかが課題である。

→一方で就労移行事業「イーウィット」の利用者数が定員のほぼ半数で推移しており、これでは安定的に正職員 2 名を置いて事業を展開することが困難である。これをふまえた再編の検討を現在進めているところである。

## ③ 環境整備、改修

部 署	箇 所	金 額	進捗状況
わらしべ園	・ WI-FI 構築工事	1,177,000	済
	・ 天井埋込型エアコン（食堂）	527,485	済
	・ 天井埋込型エアコン（男子トイレ前）	388,215	済
	・ 居室扉取替	522,000	済
第二わらしべ園	・ ガス乾燥機	1,650,000	済
	・ 厨房給排気ファン取替	1,472,680	済
	・ 壁紙改修工事	2,997,500	済
	・ 作業室土間改修	500,000	済
	・ 人材紹介手数料	602,580	済
相談支援	・ NAS 装置	522,060	済
セルプわらしべ	・ 電気設備器具取替	516,780	済

## ④ MURAI 基金の事業報告

→別紙のとおり。

### ⑤ 職員採用

- ・令和4年度は新卒採用活動を再開し、やる気ある職員の確保に努める。また、中途採用についても引き続き条件面、募集方法などを検討しながら募集する。

→令和4年度は通常の活動を再開し新卒採用に努めたが、令和5年度の新卒採用の獲得には至らなかった。  
 →中途採用に関しては、人材紹介を通じた採用が主流となり、数名の契約職員、正職員採用につながった。  
 →こうした活動の費用は年々増える一方で、法人経営を圧迫している現状は認識しておかなければならない。(以下、資料参照)

項目	部署	金額	内訳、備考
派遣職員費	わらしべ園	15,860	
	第二わらしべ園	1,030,094	
	ハッピーガーデン	4,675,562	
	合計	5,721,516	
求人広告料	わらしべ園	1,907,000	リクナビ 160万円
	第二わらしべ園	1,138,280	就職フェア 71万円
	グループホーム	776,280	
	そら・相談	132,000	
	Haru かぐまち	33,600	
	ハッピーガーデン	779,350	
	セルプわらしべ	293,040	
	村野わらしべ	298,980	
	アトラクト	126,225	
	合計	5,485,275	
	人材紹介料	第二わらしべ園	602,580
グループホーム		165,000	
合計		767,580	

## ⑥ 職員の育成および研修計画

- ・従来通り積極的に外部研修に参加させる。オンライン研修の参加などもすすめる。
- ・法人研修は年2回、ブロック別主催研修も昨年同様行う。また、自主研修会、動画の整備をすすめ勉強しやすい環境を整える。
- ・事業所横断的な委員会活動、企画などを積極的に行い、参加した職員のお互いの情報交換の機会となるよう計画する。
- ・計画的な職員異動を行い、また日中系事業所職員の生活系事業所への支援、お互いの交換研修を計画的に行う。

●異動に関するポイントは次のとおり。

- ①入所施設の経験のない正職員は計画的に入所施設に随時異動を実施。
- ②入職後3～5年の職員は、キャリアを積むため積極的に異動を実施。

- ・わたし（辻）自身が受けた研修などについて、随時法人内で研修会を設け、情報・方針の共有化を図る。また「理事長だより」を年数回発行し、法人の取り組み、理事長の行動が具体的にわかるよう取り組む。

→おおむね計画通り実行できた。今後もできるだけ外部の研修には参加させていきたいが、今年度も現場職員の不足により思うように参加させてやれなかった現状がある。参加した職員のレポートを共有するなどの対応はしているが、職員が充足しない現状がここにも影を落としている。

## 2) 法人としてのその他の取り組み

### ① 積極的な実習受け入れ

- ・福祉関係、看護関係、教員関係の学校の受け入れをそれぞれの事業所で積極的に行う。実習生がどのような進路を選ぼうとも、その職務の中で、障害福祉施設で学んだことが生かせるよう努力する。

### ② 社会への情報発信

- ・これまで同様、ホームページ、SNS、ラインを通じて、法人内の活動が分かるよう発信していく。
- ・また各事業所に何らかの方法で情報発信をするよう担当者を決め、事業計画に盛り込むようにする。
- ・職員のケース発表、活動発表ができる研修会やパネル展示ができる外部の機会を探し、積極的に参加するよう促す。
- ・福祉関係の雑誌、一般紙などで機会があれば、積極的に投稿を促す。

### ③ 社会貢献、地域貢献

- ・事業所横断的なチームを組織し、NPO や地域団体がおこなっている社会活動などにも職員が参加することで、社会問題を自ら体験するような活動を行う。
- ・以上の活動を続け、法人として取り組むべき内容について検討を重ねていく。

#### ④ 支援に関する調査・研究

- ・ 支援に関する調査・研究をひとりの職員、またはチームを組んで取り組み、レポートにまとめ報告してもらう。
- ・ 2月の法人研修会などで発表してもらうのをはじめ、対外的な報告の場に積極的に参加する。

おおむね計画通り実行できた。各項目の詳細は以下のとおりである。

- ① 実習生の受け入れは必要なコロナ対策を講じながら学校側とも協議を重ね受け入れることができた。
- ② 従来通りの活動はできたと思うが、外部に向けた発表などはまだ力不足である。今後も適当な機会をうかがい法人の活動を発信していきたい。ただ「第二わらしべ園」広報が枚方市の表彰を受けたり、ホノルルマラソン参加のようすが新聞記事になったりして、職員の活動が広く社会に賞賛されたことは喜ばしい。
- ③ この分野に関しては、まだまだ意識を持って取り組んでいかなければならない。
- ④ 例年どおり2月の発表には発表担当となった職員がしっかり取り組んでくれた。調査研究にはさらなる意識向上が必要である。